

なにもかも編笠のなかか風の盆

百合子

「なにもかも」だけで踊り手の人生や喜怒哀楽までも編笠に隠していると捉えられる、多義的な読みを可能にしている。九月の朔日から三日間に一年の全てを賭けるという八尾の人々の風の盆に相応しい内容が圧巻。また巧まらずして力行の韻律を踏んでいる点も好ましい。

【俳夢句会 講師 高橋白雀】